



## 地場産業の 景気 天気図



晴れ



晴れ一部曇り



曇り



曇り一部雨



雨

好調

不調

業種		現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
製 紙	印刷・情報用紙 新聞用紙	▶	2月の国内出荷は、印刷・情報用紙は、特に塗工紙の荷動きが低調で、前年同月比5.6%減と9ヵ月連続で減少した。新聞用紙も同2.8%減と4ヵ月連続で減少したが、平昌オリンピックなどの増頁により、減少幅は若干縮小した。
	衛生用紙	▶	2月の国内出荷は前年同月比0.3%減と、前月の増加から減少に転じた。原材料のパルプ・古紙価格の急騰、またエネルギーコストや物流費も強含んでいることから、大手や中小メーカーは製品の値上げに動き出している。
	紙加工など	▶	紙おむつの生産は高操業が続いている。特に国内向けでは大人用が増加しており、ベビー用も輸出を中心に好調。

業種		現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
一般機械 金属製品 鉄鋼	▶	産業機械関連は、建設機械・農機を中心に海外の需要が引き続き堅調。国内向けも、自動化・省力化に向けた活発な設備投資の動きなどを受け好調を維持。運搬機械は、パーキング部門（機械式駐車場等）で関東方面の需要が底堅く一定の操業度を維持している。	

業種		現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
造 船	遠洋 近海	▶	日本船舶輸出組合によると、3月の輸出船契約実績は32隻・150万4千総トンとなった。近海は主力の貨物船の引き合いが激減している。造船所が船主・オペレーターに提示する船価が現状の運賃・備船料水準からかけ離れており、厳しい先行きが予想される。
	内航	▶	1年程度の手持工事量を確保している。潜在的なリプレイス需要はあるものの、先行きが見通せず、新造に踏み切れない船主が多い。近海船の受注環境悪化で内航に参入する造船所との競合激化が懸念される。

業種		現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
海運	遠洋	 ▶ 	BDI（バルチック海運指数）は4月4日に1000の大台を割った。米国と中国の貿易摩擦で鉄鋼や穀物などの荷動き悪化が懸念され、原材料を輸送するためのバルカーの運賃・備船料は急落している。
	近海	 ▶ 	日本出しの鋼材、日本向けのバイオマス燃料ともに荷動きは堅調に推移し、船腹需給が引き締まる。一方、荷主が運賃の値下げ要請を行ったことで、船主・オペレーターを取り巻く環境は悪化している。
	内航	 ▶ 	2月の内航海運の輸送動向調査をみると、寒波・荒天の影響で、貨物船・タンカーともに前年を下回った。モーダルシフトの進展で、RORO船やフェリーなどの新規航路開設や、新造船竣工の動きが相次ぐ。

業種		現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
タオル		 ▶ 	3月のタオルの生産状況を表す今治地区の綿糸受渡数量は5,184梱で、前年同月比10.3%減となった。今治タオルの認知度は高いものの、17年度の生産量は前年度を下回った。今治タオル工業組合では、消費者の購買に結びつくよう、今後積極的なPR活動に力を入れる方針。

業種		現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
海面養殖		 ▶ 	マダイの浜値は920円/kg前後で高値圏を維持。ハマチの浜値は820円/kg前後で、競合する天然物が潤沢で値を下げていたが、足元では下げ止まり。ともに在池尾数が少なく、浜値は底堅く推移する見通し。

業種		現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
食品		 ▶ 	削り節の原料であるカツオは、バンコク相場（国際相場）が1,500ドル/トン前後の安値圏で落ち着いている。国内相場も水揚げが堅調で170円/kg前後まで下落。蒲鉾では、スリ身の価格が、北海道での不漁や北米の在庫圧縮、東南アジアの減産などで強含みの展開となっている。

業種		現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
建設		 ▶ 	3月の県内の公共工事請負金額は、前年同月比18.7%増の170億円であった。2017年度の公共工事請負金額の累計は、前年度比14.5%減の1,326億円で、発注者別では「県」や「市町」における減少が大きかった。2月の住宅着工戸数は前年比8.3%減の572戸となった。利用関係別では「貸家」の着工戸数が最も減少している。

業種		現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
観光		 ▶ 	2月の道後温泉旅館宿泊客数は、前年同月比5.7%減の59,738人と、4ヵ月連続で前年を下回った。2月の県内主要観光施設の入込み客数は、東予、中予、南予全ての地域で前年を下回り、全体では前年同月比5.4%減と2ヵ月連続で前年を下回った。